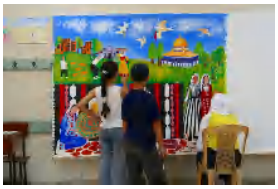
小学校における日本とシリアとの共同作成画を通した交流



2006．11．5　第22回　日本教育工学会
石川県教育センター　清水和久

今日お話すること

（1）研究の目的と方法

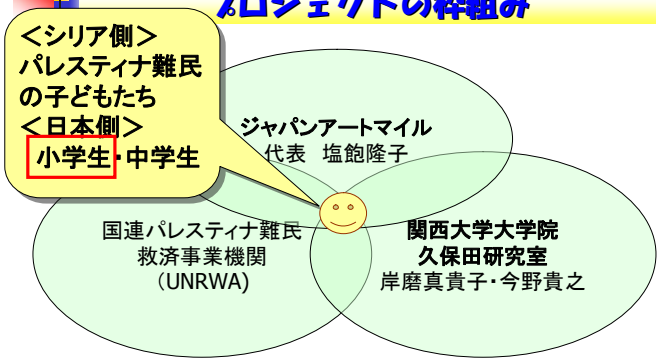
（2）国際交流の意識調査（金沢市の小学校）

（3）総合的な学習での国際理解教育の組み込み

（4）シリアとの交流の実際

（5）結果と考察

プロジェクトの枠組み



（1）研究の目的と方法

目的

- 外国の児童との共同作業を通しての意思疎通の効果的な方法について明らかにする。
- 学校現場に国際交流の活動について興味をもってもらい、継続した活動として発展させていく方法をさぐる

（1）研究の目的と方法

方法

共同で絵を描き、意思疎通の手段としてTV会議及びBBSを使用する。

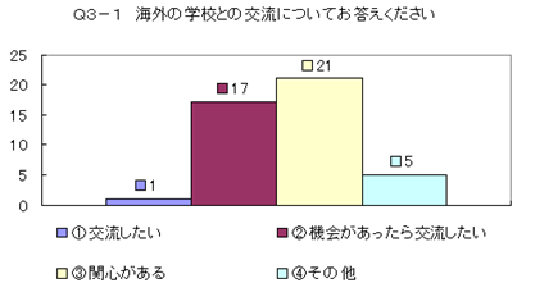
対象

日本　金沢市立扇台小学校6年3クラス

シリア　パレスティナ難民の子どもたち

（2）国際交流の意識調査

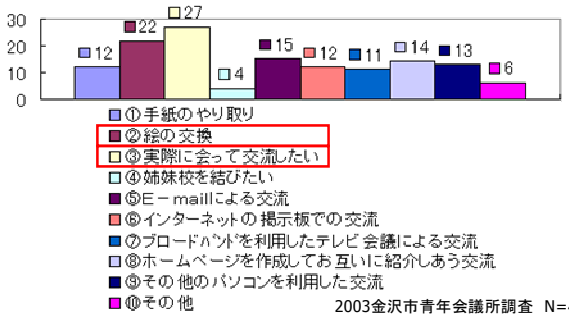
金沢市内の小学校の意識調査



2003金沢市青年会議所調査　N=44

交流したい内容

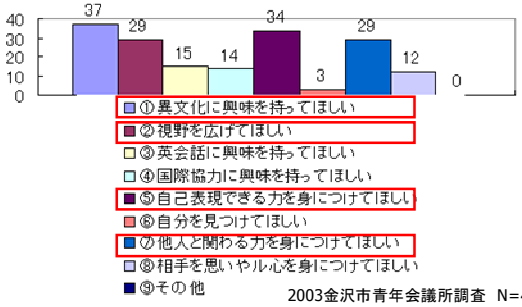
Q3－4 交流するならどのような事をしたいですか　（複数回答可）



2003金沢市青年会議所調査　N=44

交流を通して期待すること

Q3－5 交流を通して子供たちの成長にどのような成果を求めますか（複数解答可）



2003金沢市青年会議所調査　N=44

（２）国際交流の意識調査

国際交流に踏み切れない理由

- 相手の見つけ方？ ⇒ NPO団体JEARN、ジャパンアートマイル、
- 学年でそろえる難しさ ⇒ 3クラスとも取り組める、
- 交流開始の時期の問題 ⇒ 7月までは助走期間
- 交流相手校の信頼性 ⇒ 教科ともからめ、自律したカリキュラムで

（３）総合的な学習で国際理解教育を組み込んだカリキュラムの作成（50時間）

金沢市扇台小学校6年

1	シリアについて学ぼう（6時間） ゲストティーチャー（関西大学）	社会 道徳
2	調べたことをまとめよう（8時間） シリアについて、自分の国について TV会議、BBSで伝え合おう	国語 ガイドブック
3	表現しよう（8時間） 下絵を完成させよう、TV会議で伝え合	国語 学級討論しよう
4	絵を完成させよう（8時間）	図工 夢を集めて
5	まとめよう（12時間） 絵についての感想 交流で分かったこと	国語 自分の考えを発信しよう

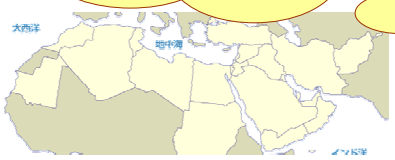
TV会議3回 先生同士 絵の打合

TV会議3回 子ども同士 自己紹介

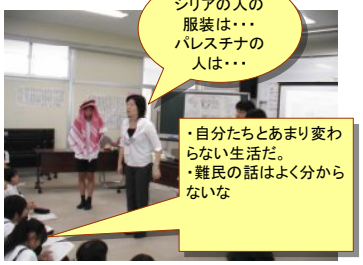
担任による シリア訪問 報告会

子どもたちのシリアの事前イメージ

何処にあるかわからない
暑い国？砂漠？
黒人が多い？
戦争で危ない国？



1．シリアとの出会い　ゲストティーチャー



関西大学院の方のお話

2．先生同士のTV会議での打ち合わせ

- 先生同士の信頼感をまずつくる

1回目、自己紹介　2回目　絵についての思い　3回目　構図の相談

3．子どもどうしのTV会議

TV会議（実行委員の子）
1回目自己紹介
2回目遊び紹介
3回目遊び紹介
簡単な英語を使ってみる

クラスごとのコンセプトを決める

クラスの子どもたちの描きたいものの希望をとった上で

- ６－１　市松模様で交互にデザイン
- ６－２　半々で　伝統文化について
- ６－３　半々で　子どもたちの楽しい遊ぶ様子

日本側の下書案（６－２）

4．扇台小の先生のシリア訪問（夏休み）

- 海外旅行初体験
- 1週間シリアへ
- パレスチナの子どもたちが描いているのを見てきた

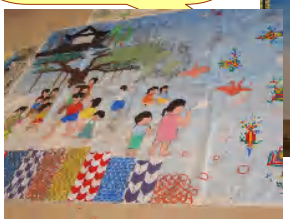
4．扇台小の先生のシリア訪問報告会

- 報告会
- おかし
- パレスチナの子どもたちが描いているのを見てきた
- パレスチナの子どもの描いたいた絵の紹介

パレスチナから持ってきた絵の鑑賞

5．日本側の小学生の絵をかく活動開始

６－３
子どもたちを空に飛ばせたい
空は一体感が出るようにシリア側に塗ってもらう



６－３完成作品

子どもたちが楽しく遊ぶ様子、空の一体感

６－２のペアー　パレスチナ側

６－２完成作品

伝統文化を中心に

６－１のペアー　パレスチナ側

６－１完成作品

デザイン中心の絵

5．結果と考察

1. サポート体制
2. 交流ツールとしてのBBS
3. TV会議
4. 先生同士の交流
5. 管理職への対応
6. 先生の直接交流

①サポート体制

- シリアのJICA職員の協力が絶大
  TV会議（skypeの機器の設定、日時の設定）
- 関西大学の協力が絶大
  通訳、BBS運営など

②交流ツールとしてのBBS

- クラス別のBBS
- 日本語、英語、アラビア語（人力翻訳）
- 日常的な報告も

③TV会議

- Skypeの導入
- 回数　児童3回、先生3回

・親密感の増加
・掲示板でのふり返り

④教師同士の意思の疎通

- 先生同士のペアーを決める
- 相手が見える交流
- 信頼感の蓄積

・同じ先生としての信頼感親の増加
・英語だけでの意思疎通は難しい→翻訳

⑤管理職への対応

- 関西大学から正式に依頼
  - ・シリアの実情の報告（不安の解消）
  - ・筋を通す

教育センターからの
サポート

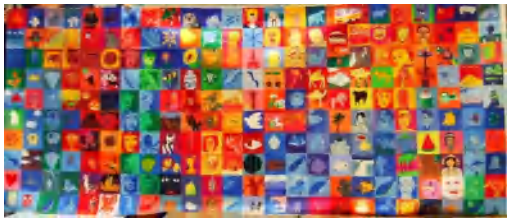
⑥直接交流（先生の）

- 身近な人が外国へ行ってきての報告はインパクトがある

今後の予定

- 描いた絵を元にしての交流
- 国内の交流校同士の交流
（アートマイル参加小学生、中学生の交流）

中学生の例



まとめ

1. 国際交流には協働作業が有益である。
（WEB作成、人形の交換、絵の作成）
達成感を持たせるものが必要
2. 絵は作業後の交流が可能
3. 小学校時代は異文化理解のタネをまく時期である

今後必要なもの

- 国際交流の相手を紹介するシステムの確立
（ジャパンアートマイル、NPO団体JEARN）
- 国際交流をコーディネートできる教師の力量を明らかにし、研修方法を提供する（センターで）
- 国際交流のカリキュラム例の提供
（総合のカリキュラムで、授業の中で）

巨大絵画で国際交流

日本とパレスチナ難民児童ら制作

高槻で展示

国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)が支援するシリアのパレスチナ難民キャンプと、日本の子どもたち計19人が共同で制作した絵画(縦1・5㍍、横3・6㍍)5枚が3日、高槻市の関西大高槻キャンパス中庭に掲げられた。

絵画の制作や展示を通じて平和を訴えるNPO「アートマイル感動プロジェクト」の活動を日本で進める「ジャパンアートマイル」(塩飽陽子代表)とUNRWA、関西大大学院久保田研究室の共同プロジェクト。

難民キャンプから36人、日本からは高槻市立第一中と金沢市立扇台小、兵庫県赤穂市の英会話塾の小中学生14人が参加。5組に分かれて、インターネットの掲示板やテレビ電話で互いの文化や風習を紹介し合って何を描くか決めた。難民キャンプの子どもたちが半分描いた後、日本に搬入し、残りを仕上げた。

5枚のうち1枚は、日本側がイスラム教のモスクや

パレスチナ難民キャンプと日本の子どもたちが共同で制作した絵画

パレスチナ難民キャンプ
富士山を横
でそれぞれ

サ

2008
る主要
の関西
市なと
ミット関
会」が
事らへの
府の開催
ている
区)を
もらうな
プにつな
PRを活
と歓迎会